

5 試験研究の取組と漁業取締船

水産技術総合センター

水産技術総合センターでは、「宮城県水産業試験研究推進構想」に基づき、水産試験研究機関が取組むべき5つの「主要目標」と「推進方策」を定め、本所・気仙沼水産試験場・内水面水産試験場が地域特性等を考慮した役割分担を行い、効率的かつ効果的な試験研究の推進に努めています。

さらに、本所は水産加工公開実験棟や種苗生産施設が県全域を対象に試験研究業務を行っています。令和6年度には、閉鎖循環式陸上養殖研究棟が加わり、陸上養殖技術の開発にも取り組みます。

◎水産技術総合センター（本所）

本県の水産試験研究の中核機関として試験研究計画の策定や各機関の連携・調整を行います。



試験研究の主な取組としては、養殖業に係る技術指導・改良・開発や漁業調査指導船による水産資源調査・海洋観測、仙台湾や松島湾などの漁場環境調査、魚類防疫に係る調査研究などを行っています。

○閉鎖循環式陸上養殖研究棟

本所敷地内に整備され、令和6年度より運用を開始します。ギンザケやイワナなどの淡水魚やホシガレイなど海水魚にも対応可能で幅広い魚種を対象に試験・研究を実施します。



○水産加工公開実験棟

40種類以上の加工機械のほか、成分分析のための機器を整備し、水産加工に関する研究を行っています。加工機械については、県内水産加工企業、漁業者等が試作試験のために使用できる環境を整備しています。



○種苗生産施設

栽培漁業の拠点として、県と（公財）宮城県水産振興協会が連携し、アワビやアカガイの種苗生産、ヒラメ・ホシガレイの中間育成などを行い、種苗の配布や放流を行っています。



◎気仙沼水産試験場

本県北部地域における沿岸漁業・養殖業の生産性向上のため、ワカメ・ホタテガイ・カキ等の養殖技術指導・改良・開発、



アワビ・ウニ類等の資源管理・増養殖技術の開発、気仙沼湾や志津川湾の漁場環境調査などを行っています。

◎内水面水産試験場

サケ・マス類の増養殖技術の改良や普及指導の他、アユの遡上状況調査や河川の漁場環境調査結果の情報提供などを行っています。



○漁業調査指導船

様々な調査機器を装備して海洋観測や水産資源調査を行っています。これらの観測データは、国内の各研究機関と共有され、海況予報や資源評価・漁場把握等に活用されています。

「開洋」

総トン数 / 19トン（長さ15.90m、幅4.30m、深さ1.50m）

主 機 関 / ディーゼル機関610kW

最大速力 / 17.9ノット

航海速力 / 15.1ノット

乗 組 員 / 5名

竣 工 / 平成25年3月27日

調査海域 / 宮城県沿岸海域



「みやしお」

総トン数 / 199トン（長さ36.07m、幅7.60m、深さ3.20m）

主 機 関 / ディーゼル機関1,471kW

最大速力 / 14.5ノット

航海速力 / 13.0ノット

乗 組 員 / 16名

竣 工 / 平成26年3月31日

調査海域 / 沖合海域



試験研究の主な取組

【宮城県水産業試験研究推進構想】

主要目標 1：環境変動等に対応した漁業・養殖生産の安定化に資する調査と技術開発

主要目標 2：水産業の生産性・収益性向上に資する技術的支援

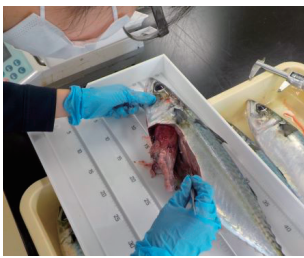
主要目標 3：漁海況情報の精度向上及び資源管理の高度化への対応

主要目標 4：漁場環境の保全に寄与する研究・技術開発

主要目標 5：海洋環境等の基礎調査

推進方策：課題の多様化・専門化に対応した試験研究体制の構築と成果の社会実装

水産資源の評価・管理（主要目標1, 3）



県内で水揚げされる魚の生態を調べるため、大きさや体重、胃の内容物や生殖腺を調べています。これらの基礎生態情報は資源評価や資源管理に役立てられます。

養殖生産の安定化（主要目標1, 4）



全国有数のカキ養殖業を支援するため、種ガキ（カキ幼生）の発生状況や養殖カキの分布状況等を調べ、漁業者に情報提供しています。

海水温上昇への対応（主要目標1, 5）



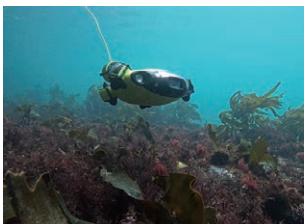
地球温暖化の水産業への影響、ブルーカーボンに関する理解の促進を図っています。また、海水温上昇に対応する新たな養殖種の試験養殖に取り組んでいます。

新たな魚種への対応（主要目標1, 2）



加工企業から寄せられる各種相談への対応や水産加工公開実験棟に整備した加工機器を用いた技術的支援、新たな加工原料開発に向けた試験研究、情報発信等を行っています。

磯根漁場の管理・保全（主要目標1, 4）



岩礁域の水産資源を持続的に利用できるよう、アワビ・ウニ類の資源量調査や海中造林のためのアサメ種苗生産試験を行っています。

内水面養殖業の収益性向上（主要目標1, 2）



ギンザケ高成長系統の実証試験と普及、全雌三倍体イワナ（伊達いわな）の種苗生産と配布を行っています。

漁業取締船

漁業者の安全・安心な操業と水産資源を守るため、違法操業や密漁の監視・取締まりを行い、漁業秩序の維持に努めています。

漁業取締船「うみたか」

総トン数 / 61トン（長さ28.60m、幅5.50m、深さ2.70m）

主機関 / ディーゼル機関3,526kW

乗組員 / 8名

竣工 / 平成27年11月27日



漁業取締船「うみわし」

総トン数 / 65トン（長さ28.60m、幅5.50m、深さ2.70m）

主機関 / ディーゼル機関3,526kW

乗組員 / 8名

竣工 / 令和元年12月25日

